

## 宇宙開発・利用の体制に関する意見

東京大学 中須賀真一

先日（10月31日）の専門調査会に出られませんでしたので、その資料等を見させていただきましたことも踏まえ、体制についていくつか意見を述べさせていただければと思います。

1)すでに議論はされていることではあるが、新体制の一番のかなめは、宇宙政策とそれを実行するための戦略を立案する司令塔機能を充実させることにある。それを内閣府の新組織、あるいは提案されている「宇宙政策委員会」の中で確実に実施できる仕組みを構築する必要がある。

2)情報なくしては戦略は立てられない。上記の宇宙政策・戦略の立案には、海外の宇宙開発・利用活動の動向や各国の思惑、日本の宇宙技術の強みと弱み、衛星の利用ニーズなどの徹底的な調査と分析がまず必要となるので、それを担当する組織の構築も併せて必要である。先日の資料に書かれたものの中では、宇宙政策委員会の下の部会等が担当するのが適当であるが、高い専門性が要求されることを勘案すると、調査・分析のプロフェッショナルが育つ環境や人事制度を整備する必要がある。

3)先に述べた司令塔組織は、上記の分析された情報をもとに、宇宙利用の将来のロードマップを立て、それを実現するための産業振興施策や技術開発のロードマップを立案する作業を実施すべきである。宇宙開発・利用予算の配分は、これをもとに上記の司令塔組織で議論すべきである。

4)海外の国を巻き込んだ国際的なプロジェクトを日本がリーダーシップを発揮して率いる、あるいは、キャパビル支援も含めたパッケージ戦略として海外に日本の技術売り込むような「海外戦略」は今後ますます重要になり、宇宙産業が官需の枠を超えて発展するために必須である。そのためには、それぞれの案件に対し、複数省庁を含み JAXA も含んだオールジャパンのタスクフォースを組んで事に当たる必要があり、1)で述べた司令塔の指揮のもとでそれが実施できる仕組みが必要である。

5)これまでの宇宙キャッチアップの時代からフロントランナーになろうとしている現在において、宇宙開発の中核であった JAXA の果たすべき役割も当然変わってしかるべきである。たとえば、企業を監督しつつ衛星やロケット開発に関与することがいまだ必要なかどうか、それよりも、もっと産業振興や利用ニーズの開拓、海外展開のアイデア創成と戦略作りなど、今後の日本の宇宙開発・利用においてより注力すべき作業に力を発揮すべく、その機能を充実させてはどうか、と考える。移り変わりの激しい省庁からの人員と異なり、JAXA では同じ業務を長期間継続してできるそのメリットを最大限発揮し、様々な分野での宇宙のプロとしての役割を期待したい。